

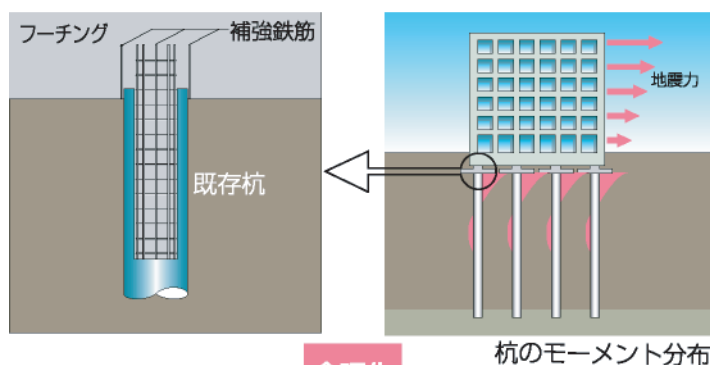
既製コンクリート杭の 杭頭簡易接合法に関する研究

青島 一樹・長瀧 慶明・真島 正人・和智 勝則・浅野 真一郎・前田 昇

Study on Structural Method of Simplified Connection of Pile Head for Precast Concrete Pile

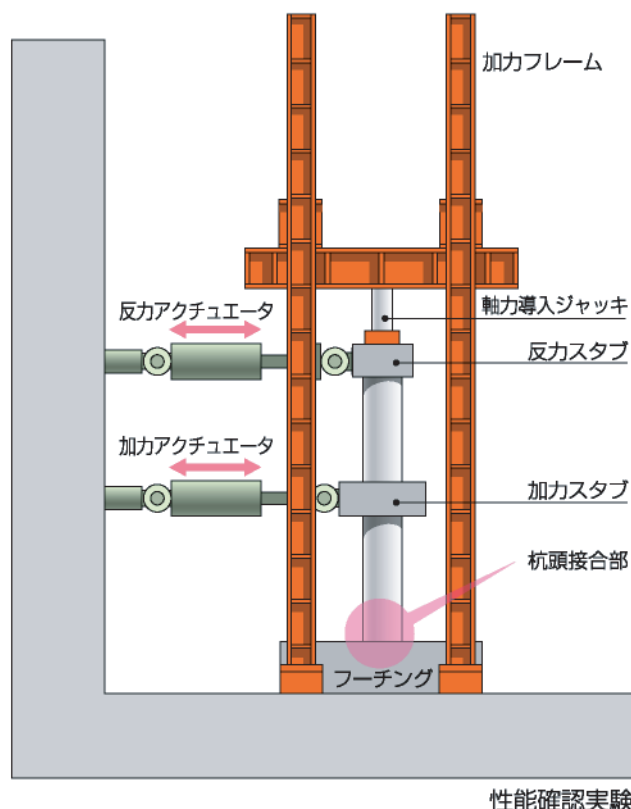
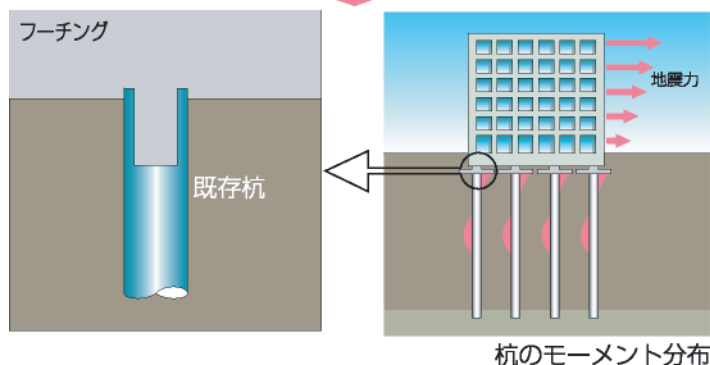
Kazuki Aoshima, Yoshiaki Nagataki, Masato Majima, Wachi Katsunori, Sano Shinichiro and Noboru Maeda

通常接合法



合理化

簡易接合法



研究の目的

現在、既製コンクリート杭の杭頭接合法は、補強鉄筋を使用して杭とフーチングを剛結する方法（通常接合法）が主流です。本来、杭頭を剛結した場合、地震時には杭頭部に応力が集中するために、杭は損傷を受けやすくなります。本研究では、既製コンクリート杭の杭頭接合部を合理化する目的で、補強鉄筋を使用せずに杭とフーチングを半剛結とする接合法（簡易接合法）の耐力と変形性能を実験と解析によって求めています。

技術の説明

既製コンクリート杭の杭頭接合部に簡易接合法を適用するための技術です。簡易接合法を採用することによって、基礎の耐震性能を向上させると共に、工期・コストを削減できます。

主な結論

既製コンクリート杭に簡易接合法を採用した場合、通常接合法に比較して、杭頭の曲げモーメントを6～7割に低減できることが分かりました。研究結果から、既製コンクリート杭に簡易接合法を適用することが可能と考えています。